

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300350		
法人名	医療法人財団弘慈会		
事業所名	グループホーム まいはあと	ユニット名	さわやか
所在地	宮城県栗原市若柳字福岡谷地畑浦88番地		
自己評価作成日	令和 4年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームまいはあとは季節の行事やクラブ活動等積極的に行い生活の質を高めています。今年度もコロナ禍の影響で地域交流や外部での行事には参加できなかったが、庭の散歩やドライブ等を行ない気分転換を図っています。また、歩行訓練、ストレッチ、体操等ホームでのリハビリを意識し日常生活動作の低下防止に努め、生活の中で出来る事を意欲的に行って頂き、利用者様が「毎日と一緒に育みながらあたたかい時(間)を大切にすること」を支援しています。月1回の避難訓練の実施、水害マニュアルの見直し、避難確保計画の作成で職員の防災意識を高め、より安全で安心な生活を提供できるよう努めています。コロナ禍によるストレスを軽減し、不安を感じさせないよう細かい気配りを心がけ、楽しみを持って生活して頂く事を特に意識し日々のケアを行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年11月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、東北自動車道若柳金成インターチェンジから東へ車で5分位、白鳥が飛来する田んぼの中に建っている。平屋建て2棟を使用している。広い庭には、花や姫林檎や葡萄の木があり、ベンチが設置されている、管理者を中心にして職員のチームワークがいい。施設長である医師の指示で、入居者個々に合ったリハビリを実施し機能低下を防いでいる。避難訓練を毎月実施し、「スロープの設置を迷わずにしたい」などの反省を次の訓練に活かしている。目標達成計画の「コロナ禍で食べる楽しみや季節感を味わう」は、若柳地区に花見ドライブに出かけたり、庭で苺狩りをするなどして達成した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホーム まいはあと)「 ユニット名 さわやか 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末に書くユニット毎に理念について再検討を行っている。理念の理解について互いに共有し合えるよう、また行動がブレないよう意識づけの声がけをして常に確認できるように掲示している。	ホーム運営理念は開設時から継続しており、事務所と食堂に掲示している。全員で話し合っ「思いや希望を聞く」などを行動指針に決めた。毎月の全体朝礼で唱和し、「心の通い合うケア」を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	珍しい野菜や花を届けて頂き利用者が直接触れる機会を作って頂いている。地元の営農組合より野菜を届けて頂いている。	花や野菜、そら豆を近くの農家が持って来てくれる。近くのデイサービス主催のオレンジカフェに職員が参加した。離設者捜索訓練で近隣を捜索しながらゴミ拾いを実施した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナ禍の影響で運営推進会議やボランティアの受け入れの実践が出来なかったが、離設者捜索訓練終了後に地域のゴミ拾い行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、新型コロナウイルス感染予防の為運営推進会議は中止しているが広報誌の作成、研修や会議の報告をしている。アンケートを同封して意見を頂き、施設の運営に反映している。	コロナ禍の為、書面会議で行っている。「広報まいはあと」や「事故・ヒヤリハット報告集計」等を送付している。集計の結果を分析する提案があり、実施して報告した。市職員と包括職員がメンバーになっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員と電話連絡等を密に取り、情報共有を行い協力関係を築いている。また、地域包括支援センターに入居について相談させて頂いている。	市に介護報酬改定の相談をしている。コロナ支援物資、消毒液、マスクの支援をもらった。市から「ケアプランについて」等の研修会の案内があり、参加した。地域包括支援センターから入居者を紹介してもらった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回内部研修を行っている。利用者、家族には身体拘束の弊害、それに伴うリスクについても説明している。身体拘束適正化委員会を設置し不適切な行為がないか検討している。	外に行こうとする入居者に付き添い、「どこに行くんですか」と行動を制止する言い方でなく、「どうしましたか」と声掛けを行っている。年2回の研修会を実施し、高齢者の精神疾患について学び、身体拘束をしないケアを実践している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回内部研修を開催し否定的な言動や行動、態度にならない対応を心がけ虐待を防止している。会議やカンファで気になる事や気付いた事等意見を出し検討している。	皮下出血については内服薬等の影響で出来やすい方もいるので、皮膚状態の確認や移乗方法を職員で検討したり施設長より指示を受けている。入居者の対応の仕方について迷ったときは、法人の専門医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの相談で外部研修、内部研修で学んだ事を参考に利用者が活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、内容を十分説明し、解約内容にもふれ、疑問や不安等確認している。利用料改定がある場合は、事前に理由を説明し同意を得ている。報酬加算の必要性の説明を行い同意得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日常的に、意見や思いを話す機会がある。また、普段の何気ない会話の中に意見や要望がないか確認している。家族には面会時、意見や要望を伺いサービスの向上に努めている。	家族が支払いや面会で来訪の際に、意見を聞いている。「ライン、フェイスブックで面会をさせてほしい」の要望に対応して、できるようにした。ケース記録や申し送りノートで家族等の意見を、職員全員で共有している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がいつでも意見や提案しやすい環境を整えたり、各棟カンファレンス、各委員会などで意見を出し合い反映できるよう努めている。また、クラブ活動を通して職員が趣味や特技を活かし意欲的に業務に就いている。	毎月のカンファレンスや経営改善会議などで意見を出し合っている。ブラウン管テレビを液晶テレビに、照明をLEDに交換する要望があり買い替えた。ケアマネの更新研修受講料補助や公休扱いの支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は処遇改善及び特定処遇改善の手続きをし、研修、キャリアパスの制度も取り入れている。施設長は管理者や職員個々の努力や勤務状況等を把握し、職場環境・条件の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は、管理者や職員の経験、能力に応じて内部研修、外部研修の機会を計画し、職員育成を行なっている。互いの経験を活かし業務を通じて知識技術の向上に努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム協議会に加入している。グループホーム協議会からのアンケート調査に協力し、集計結果で現状の情報提供して頂きサービスに反映できるように努めている。	グループホーム協議会北ブロックの「看取りの報告会」にオンラインで参加した。医師である施設長にアドバイスを受けている。調剤薬局の薬剤師から「吞み込みが悪くなった場合の薬の飲ませ方」を教えてもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や実態調査時、本人の要望に耳を傾けている。入居後も一人ひとりとゆっくり会話したり関わる時間を大切にしている。また、本人の思いを汲み取り安心できる環境作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や入居後の面会や電話の際、家族の要望や思い等に耳を傾け、受け止め、信頼関係が築けるよう心がけている。医師である施設長をはじめ全職員で努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等確認し相談を重ねながら、必要としているサービスを見極め、提供できるようにしている。早急な対応の必要な相談者には他のサービス機関への橋渡しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの個性を活かし、力の発揮できる場面が多く持てるよう工夫している。家事作業、野菜の収穫、歌や得意な事など教えてもらい共に行ない感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会等を通して本人の様子や思いを家族へ伝えている。本人の思いを介護計画にも盛り込み、職員は家族と一緒に支援する方法を相談しあえる関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で制限あるも本人の健康状態を見ながら家族とドライブをしたり、友人や知人の窓越し面会も継続できている。また、馴染みの美容院から出張して頂けている。	馴染みの散髪屋が来訪している。文通を家族や友達、教え子としている入居者がいる。ドライブが好きで家族と一緒に外出をする入居者もいる。コロナ禍なので面会は、予約をして窓越しに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴き、趣味や特技を活かし他者との交流を図って頂くため、クラブ活動への参加で意欲向上に努めた。他棟の方との交流や利用者同士と一緒に楽しく過ごせるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の心身状態等で他施設や病院へ移る場合には十分な説明、医師である施設長の面談を行い、利用者や家族の思い、情報を事前に詳しく提供している。サービス利用終了後も、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとのコミュニケーションを大切に、言葉や表情等から思いを引き出せるように心がけている。家族と話し合い、できるだけ本人の要望に添った対応をしている。	入居時に本人や家族から希望や意向等を聞き、要望に対応している。また、ドライブや散歩時等の会話からやりたいことを聞き、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者の協力を頂きながら生活歴やサービス利用に至った経過等把握に努めている。入居後も一人ひとりとゆっくり会話し、会話の中から馴染みの暮らし等引き出すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、できること、わかること等を日々の生活の中から把握している。職員は話し合い、できることに注目した働きかけを心がけ、できないことはさりげなく支援している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向や要望を聴き取りしている。医師、介護支援専門員、計画作成担当者が中心となり介護計画を作成している。毎月評価し3ヶ月ごとに見直し、状況の変化に応じて随時見直しを行っている。	機能低下を防ぐリハビリをプラン化することをホームの特徴としている。「仕事をやりたい」には野菜の皮むきや洗濯物たたみ等をプランに入れた。プランは月初のカンファレンスにおいて、職員全員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日記録し、毎月の評価をもとにカンファレンスや申し送り等で情報を共有している。ケアの気づきやケアの方法、意向等を話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や外出等必要な支援は柔軟に対応している。特に急変や緊急を要する場合や家族の要望に応じて専門機関への通院支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報誌や地域の情報を収集し活用している。病院等馴染みの所を利用する支援をしている。消防署の協力を得て避難訓練や近隣の危険箇所を確認し安全への取り組みをしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への通院付添い、週1回の訪問診療は職員が支援し、少しでも不安があれば直接医師に報告し指示を頂き、受診結果は随時家族へ報告している。家族や医師より面談の意向がある時は調整している。	毎週1回の施設長による訪問診療や回診を受けている。ペースメーカーの点検や皮膚科等の専門医は、家族または職員が付き添って受診している。月1～2回、歯科の訪問診療を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常は医師である施設長に情報や気づきを伝え対応の指示を頂いている。看護師が訪問した際、情報提供し看護的アドバイスを頂いている。協力病院の看護師に症状等伝え医師に指示をもらえる仕組みがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護支援専門員が関係医療機関と連携をとっている。また、入院時には医療機関へ本人・家族同意の上情報を提供し、利用者が早期退院できるよう支援している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や終末期には、医師である施設長より面談を行なっている。また、事業所としてできることを説明し職員・家族・協力医療機関と連携して支援していくように努めている。	重度化した場合の指針や看取り介護について成文化している。入居時に重度化したときホームで出来る事を家族に説明をしている。今年度2名の看取りを行い、振り返りで「精一杯やっても後悔は残る」などがあつた。医師との24時間連絡可能な体制を確保している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを勉強会の際に確認している。また、協力医療機関医療安全対策委員会主催の研修に参加している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアル、避難確保計画を作成し月1回避難訓練、年1回震災、水害、離脱訓練を実施。地域の方や消防署に協力を得ている。災害時には併設施設へ避難、地域の方の入居受け入れも可能である。	早朝や夜間想定を含めて毎月避難訓練を実施している。消防署が車で6～7分の所にあり、署員の立合い訓練で声の掛け合いを評価された。訓練後に、「避難場所にイスの準備をしていなかった」など反省があつた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり歩んできた背景を把握し、人生の先輩という事を忘れず、声かけや対応を考え工夫している。援助が必要な時もさりげないケアをするようタイミングをみながら言葉がけするように心掛けている。	入居者が嫌がることはしないように心掛けています。入居者の名前の呼び方や性格を、職員間で共有している。居室への入室の際はノックして目的を話し、「入っていいですか」と声掛けをし、了解を得て入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない言葉や表情から思いや希望が汲み取れるようコミュニケーションを大事にしている。それぞれの思いを引き出せるよう個別に時間をかけて話し合い確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節や地域の催し物について話題提供している。本人の意思や希望を確認し散歩、ドライブ等一人ひとりの状態に配慮し柔軟に対応している。また、外出が難しい方には出前や弁当で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃からおしゃれを楽しんで頂けるよう取り組んでいる。また、外出時には好きな服、バック、帽子等コーディネートできる様な時間をつくり楽しみながら選んで頂けるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物をメニューに取り入れ美味しく頂けるよう味付け等の工夫をしている。一人ひとりの希望にそって食事やおやつを提供したり、出前を楽しんで頂いている。盛り付けや後片付けも一緒に行っている。	入居者は南瓜やさつま芋、はっと汁を好んでいる。正月に、なめたカレーや茶碗蒸しが食卓を飾った。職員と一緒におはぎを作ったり、スイーツバイキングを楽しんでいる。食後に食器拭きをする入居者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が作成した献立を基に、食事摂取量を確認、体重の増減に注意し、食事量の少ない方は補食提供している。一人ひとりの機能や嗜好に合わせた食形態や水分の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はうがいや義歯外しの声かけやブラッシングを勧めている。義歯は夕食後に預かり洗浄剤につけ置きし洗ってから翌朝お渡ししている。義歯の違和感や痛みのある時は歯科往診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや行動を把握し、入居者にあった誘導を行っている。失禁への対応は自尊心に配慮し、さりげなく行っている。身体機能に応じ見守り、介助を行い自立に向けて支援している。	入居後2週間、排尿・排便をチェックして個々の傾向を掴んでいる。他の入居者に配慮し「トイレに行こう」ではなく「向こうに行ってみませんか」と声掛けをしている。適切な誘導でパッドから布パンツに改善された例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や棟内歩行、足の屈伸運動、散歩等体を動かす機会を作っている。一人ひとりの排泄状態や水分摂取量を毎日確認記録し、随時水分を提供したり、野菜をふんだんに使った食事作りに取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとり希望を伺い午前・午後の好きな時間に入浴できるよう支援している。入浴前には、バイタル測定を行い体調確認をしている。安全で安心して入浴できるように二人介助やシャワーチェアを使用している。	入浴は週2回、見守りながら行っている。一番風呂の希望が多い。プライバシーに配慮してタオルで被うなどしている。立位が難しい方は2人介助を行っている。脱衣所の温度管理は、扇風機やヒーターで行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えて気温、湿度の確認をし不快にならないよう配慮している。一人ひとりの体調や様子を見ながら日中の過ごし方を工夫している。眠れないと訴えある時には必要に応じて医師に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳、薬の説明書をよく読み、薬の目的や副作用、用法や用量を理解している。与薬時は名前、日付、数(錠剤)を必ず確認し飲み終えるまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し経験や知識が発揮出来るよう野菜の収穫、園芸、買い物等の場面作りをしている。日々の張り合いとなるよう意思を伺い「やれる事」や「できそうな事」を取り入れ支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調やその日の天気を見ながら散歩、買い物、おやつを食べに外出している。家族とのドライブ、外出を楽しむことができている。	若柳に花見ドライブや金成の道の駅に出かけた。家族と外出をしている入居者もいる。入居者の体調をみながら、園内を散歩をしている。敷地内で葡萄や林檎、苺の収穫をしたり、芋煮会や夏祭り、花火大会を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昼食時の出前、弁当、ドライブ時のおやつは好きな物を選んで頂けるように支援している。金銭管理は家族の希望や一人ひとりの力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の協力もあり、いつでも電話がかけられる支援している。また、手紙やハガキの投函の代行をしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天気、時間帯により、温度、湿度、照明、音等快適に過ごせるように配慮している。また、四季折々の装飾や園庭の花等で季節のうつり変わりを感じて頂けるよう工夫している。	台所から居間兼食堂が見渡せる。季節ごとに飾りつけを変えており、現在はクリスマスツリーを飾っている。壁にはクリスマスの飾りつけをしている。1日4回の換気を行い、コロナ感染防止に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、テーブル、ソファの置き場所を工夫し、ゆっくり寛げるようにしている。気の合う利用者同士会話を楽しんだり、お互いの居室へ遊びに行かされている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族より本人の好み、使い慣れたものを準備して頂き、心地よく安心して過ごしている。買い替えの時は本人、家族と相談し準備している。	洗面台やクローゼット、エアコンが備えられている。ベッドや筆筒等馴染みの物を持ち込んで自宅の雰囲気を出している。娘や孫の写真、誕生日カード、夫の位牌などを置いている。テーブルを自分で拭く入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は整理整頓を心がけ、安全に配慮している。居室、トイレ、お風呂場等に表示し分かりやすいようにしている。持ち込みの多い方の場合には配置に特に気をつけるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300350		
法人名	医療法人財団弘慈会		
事業所名	グループホーム まいはあと	ユニット名	なごやか
所在地	宮城県栗原市若柳字福岡谷地畑浦88番地		
自己評価作成日	令和 4年10月12日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームまいはあとは季節の行事やクラブ活動等積極的に行い生活の質を高めています。今年度もコロナ禍の影響で地域交流や外部での行事には参加できなかったが、庭の散歩やドライブ等を行ない気分転換を図っています。また、歩行訓練、ストレッチ、体操等ホームでのリハビリを意識し日常生活動作の低下防止に努め、生活の中で出来る事を意欲的に行って頂き、利用者様が「毎日と一緒に育みながらあたたかい時(間)を大切にすること」を支援しています。月1回の避難訓練の実施、水害マニュアルの見直し、避難確保計画の作成で職員の防災意識を高め、より安全で安心な生活を提供できるよう努めています。コロナ禍によるストレスを軽減し、不安を感じさせないよう細かい気配りを心がけ、楽しみを持って生活して頂く事を特に意識し日々のケアを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、東北自動車道若柳金成インターチェンジから東へ車で5分位、白鳥が飛来する田んぼの中に建っている。平屋建て2棟を使用している。広い庭には、花や姫林檎や葡萄の木があり、ベンチが設置されている、管理者を中心にして職員のチームワークがいい。施設長である医師の指示で、入居者個々に合ったリハビリを実施し機能低下を防いでいる。避難訓練を毎月実施し、「スロープの設置を迷わずにしたい」などの反省を次の訓練に活かしている。目標達成計画の「コロナ禍で食べる楽しみや季節感を味わう」は、若柳地区に花見ドライブに出かけたり、庭で莓狩りをするなどして達成した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホーム まいはあと)「 ユニット名 なごやか 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末に各ユニット毎に理念について再検討を行なっている。理念の理解について互いに共有しあえるよう、また行動がブレないよう意識づけの声かけをして常に確認できるように掲示している。	ホーム運営理念は開設時から継続しており、事務所と食堂に掲示している。全員で話し合っ「思いや希望を聞く」などを行動指針に決めた。毎月の全体朝礼で唱和し、「心の通い合うケア」を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	珍しい野菜や花を届けて頂き利用者が直接触れる機会を作って頂いている。地元の営農組合より野菜を届けて頂いている。	花や野菜、そら豆を近くの農家が持って来てくれる。近くのデイサービス主催のオレンジカフェに職員が参加した。離設者検索訓練で近隣を探索しながらゴミ拾いを実施した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナ禍の影響で運営推進会議やボランティアの受け入れが実践できなかったが離設者検索訓練終了後に地域のごみ拾いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、新型コロナウイルス感染予防の為運営推進会議は中止しているが広報誌の作成、研修や会議の報告をしている。アンケートを同封して意見を頂き、施設の運営に反映している。	コロナ禍の為、書面会議で行っている。「広報まいはあと」や「事故・ヒヤリハット報告集計」等を送付している。集計の結果を分析する提案があり、実施して報告した。市職員と包括職員がメンバーになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員と電話連絡を密に取り、情報共有を行い協力関係を築いている。また、地域包括支援センターに入居について相談させて頂いている。	市に介護報酬改定の相談をしている。コロナ支援物資、消毒液、マスクの支援をもらった。市から「ケアプランについて」等の研修会の案内があり、参加した。地域包括支援センターから入居者を紹介してもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回内部研修を行っている。利用者、家族には身体拘束の弊害、それに伴うリスクについても説明している。身体拘束適正化委員会を設置し不適切な行為がないか検討している。	外に行こうとする入居者に付き添い、「どこに行くんですか」と行動を制止する言い方でなく、「どうしましたか」と声掛けを行っている。年2回の研修会を実施し、高齢者の精神疾患について学び、身体拘束をしないケアを実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回内部研修を開催し否定的な言動や行動、態度にならない対応を心がけ虐待を防止している。会議やカンファで気になる事や気付いた事等意見を出し検討している。	皮下出血については内服薬等の影響で出来やすい方もいるので、皮膚状態の確認や移乗方法を職員で検討したり施設長より指示を受けている。入居者の対応の仕方について迷ったときは、法人の専門医に相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの相談で外部研修、内部研修で学んだ事を参考に利用者が活用できるように支援している。まもりーぶを活用していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、内容を十分説明し、解約内容にもふれ、疑問や不安等確認している。利用料改定がある場合は、事前に理由を説明し同意を得ている。報酬加算の必要性の説明を行い同意得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日常的に、意見や思いを話す機会がある。また、普段の何気ない会話の中に意見や要望がないか確認している。家族には面会時、意見や要望を伺いサービスの向上に努めている。	家族が支払いや面会で来訪の際に、意見を聞いている。「ライン、フェイスブックで面会をさせてほしい」の要望に対応して、できるようにした。ケース記録や申し送りノートで家族等の意見を、職員全員で共有している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がいつでも意見や提案をしやすい環境を整えたり、各棟カンファレンス、各委員会で意見を出し合い反映できるよう努めている。また、クラブ活動を通して職員が趣味や特技を活かし意欲的に業務に就いている。	毎月のカンファレンスや経営改善会議などで意見を出し合っている。ブラウン管テレビを液晶テレビに、照明をLEDに交換する要望があり買い替えた。ケアマネの更新研修受講料補助や公休扱いの支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は処遇改善及び特定処遇改善の手続きをし、研修、キャリアパスの制度も取り入れている。施設長は管理者や職員個々の努力や勤務状況等を把握し、職場環境・条件の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は、管理者や職員の経験、能力に応じて内部研修、外部研修の機会を計画し、職員育成を行なっている。互いの経験を活かし業務を通じて知識技術の向上に努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県グループホーム協議会に加入している。グループホーム協議会からのアンケート調査に協力し、集計結果で現状の情報提供して頂きサービスに反映できるように努めている。	グループホーム協議会北ブロックの「看取りの報告会」にオンラインで参加した。医師である施設長にアドバイスを受けている。調剤薬局の薬剤師から「呑み込みが悪くなった場合の薬の飲ませ方」を教えてもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や実態調査時、本人の要望に耳を傾けている。入居後も一人ひとりとゆっくり会話したり関わる時間を大切にしている。また、本人の思いを汲み取り安心できる環境作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や入居後の面会や電話の際、家族の要望や思い等に耳を傾け、受け止め、信頼関係が築けるよう心がけている。医師である施設長をはじめ全職員で努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等確認し相談を重ねながら、必要としているサービスを見極め、提供できるようにしている。早急な対応の必要な相談者には他のサービス機関への橋渡しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの個性を活かし、力の発揮できる場面が多く持てるよう工夫している。家事作業、野菜の収穫、歌や得意な事など教えてもらい共に行ない感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会等を通して本人の様子や思いを家族へ伝えている。本人の思いを介護計画にも盛り込み、職員は家族と一緒に支援する方法を相談しあえる関係を築いている。また、フェイスタイムも活用して頂いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で制限あり外出は出来ていないも、友人や知人の窓越し面会は継続出来ている。	馴染みの散髪屋が来訪している。文通を家族や友達、教え子としている入居者がいる。ドライブが好きで家族と一緒に外出をする入居者もいる。コロナ禍なので面会は、予約をして窓越しに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴き、趣味や特技を活かし他者との交流を図って頂くため、クラブ活動へ参加で意欲向上に努めた。他棟の方との交流や利用者同志と一緒に楽しく過ごせるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の心身状態等で他施設や病院へ移る場合には十分な説明、医師である施設長の面談を行い、利用者や家族の思い、情報を事前に詳しく提供している。サービス利用終了後も、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとのコミュニケーションを大切に、言葉や表情等から思いを引き出せるように心がけている。家族と話し合い、できるだけ本人の要望に添った対応をしている。	入居時に本人や家族から希望や意向等を聞き、要望に対応している。また、ドライブや散歩時等の会話からやりたいことを聞き、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者の協力を頂きながら生活歴やサービス利用に至った経過等把握に努めている。入居後も一人ひとりとゆっくり会話し、会話の中から馴染みの暮らし等引き出すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、できること、わかること等を日々の生活の中から把握している。職員は話し合い、できることに注目した働きかけを心がけ、できないことはさりげなく支援している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向や要望を聴き取りしている。医師、介護支援専門員、計画作成担当者が中心となり介護計画を作成している。毎月評価し3か月ごとに見直し、状況の変化に応じ随時見直しを行っている。	機能低下を防ぐリハビリをプラン化することをホームの特徴としている。「仕事をやりたい」には野菜の皮むきや洗濯物たたみ等をプランに入れた。プランは月初のカンファレンスにおいて、職員全員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日記録し、毎月の評価をもとにカンファレンスや申し送り等で情報を共有している。ケアの気づきやケアの方法、意向等を話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や外出等必要な支援は柔軟に対応している。特に急変や緊急を要する場合や家族の要望に応じて専門機関への通院支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報誌や地域の情報を収集し活用している。病院等馴染みの所を利用する支援をしている。消防署の協力を得て避難訓練や近隣の危険な箇所を確認し安全への取り組みをしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への通院付添い、週1回の訪問診療は職員が支援し、少しでも不安があれば直接医師に報告し指示を頂き、受診結果は随時家族へ報告している。家族や医師より面談の意向がある時は調整している。	毎週1回の施設長による訪問診療や回診を受けている。ペースメーカーの点検や皮膚科等の専門医は、家族または職員が付き添って受診している。月1～2回、歯科の訪問診療を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常は医師である施設長に情報や気づきを伝え対応の指示を頂いている。看護師が訪問した際、情報提供し看護的アドバイスを頂いている。協力病院の看護師に症状等伝え医師に指示をもらえる仕組みがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護支援専門員が関係医療機関と連携をとっている。また、入院時には医療機関へ本人・家族同意の上情報を提供し、利用者が早期退院できるよう支援している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や終末期には、医師である施設長より面談を行なっている。また、事業所としてできることを説明し職員・家族・協力医療機関との連携を図りチームで支援していくように努めている。	重度化した場合の指針や看取り介護について成文化している。入居時に重度化したときホームで出来る事を家族に説明をしている。今年度2名の看取りを行い、振り返りで「精一杯やっても後悔は残る」などがあった。医師との24時間連絡可能な体制を確保している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを勉強会の際に確認している。また、協力医療機関医療安全対策委員会主催の研修に参加している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアル、避難確保計画を作成し月1回避難訓練、年1回震災、水害、離脱訓練を実施。地域の方や消防署に協力を得ている。災害時には併設施設へ避難、地域の方の入居受け入れも可能である。	早朝や夜間想定を含めて毎月避難訓練を実施している。消防署が車で6～7分の所にあり、署員の立合い訓練で声の掛け合いを評価された。訓練後に、「避難場所にイスの準備をしていなかった」など反省があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり歩んできた背景を把握し、人生の先輩という事を忘れず、声かけや対応を考え工夫している。援助が必要な時もさりげないケアをするようタイミングをみながら言葉がけするように心掛けている。	入居者が嫌がることはしないように心掛けている。入居者の名前の呼び方や性格を、職員間で共有している。居室への入室の際はノックして目的を話し、「入っていいですか」と声掛けをし、了解を得て入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい方は表情を見ながら、選択できるような声かけをし確認している。居室担当者を決めて、担当者がこまめに思いや希望を聞き、意向を吸い上げるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節や地域の催し物について話題提供している。本人の意思や希望を確認し散歩、ドライブ等一人ひとりの状態に配慮し柔軟に対応している。また、外出が難しい方には出前や弁当で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段より整容の支援をしその人らしさを活かせるように努めている。自己決定しやすいよう天候や状況等を話題にし、さりげなく選べるようにしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物をメニューに取り入れ美味しかったりだけるよう味付け等の工夫をしている。一人ひとりの希望にそって食事やおやつを提供したり、出前を楽しんで頂いている。盛り付けや後片付けも一緒に行っている。	入居者は南瓜やさつまいも、はっと汁を好んでいる。正月に、なめたカレーや茶碗蒸しが食卓を飾った。職員と一緒におはぎを作ったり、スイーツバイキングを楽しんでいる。食後に食器拭きをする入居者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が作成した献立を基に、食事摂取量を確認、体重の増減に注意し、食事量の少ない方は補食提供している。一人ひとりの機能や嗜好に合わせた食形態や水分の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいの声かけを行なっている。夕食後、義歯は洗浄剤につけおきし翌朝お渡ししている。介助が必要な利用者には毎食後口腔ケアの支援をしている。必要に応じて歯科往診の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや行動を把握し、入居者にあった誘導を行っている。失禁への対応は自尊心に配慮し、さりげなく行っている。身体機能に応じ見守り、介助を行い、自立に向けて支援している。	入居後2週間、排尿・排便をチェックして個々の傾向を掴んでいる。他の入居者に配慮し「トイレに行こう」ではなく「向こうに行ってみませんか」と声掛けをしている。適切な誘導でパッドから布パンツに改善された例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や棟内歩行、足の屈伸運動、散歩等体を動かす機会を作っている。一人ひとりの排泄状態や水分摂取量を毎日確認記録し、随時水分を提供したり、野菜をふんだんに使った食事作りに取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとり希望を伺い午前・午後の好きな時間に入浴できるよう支援している。入浴前には、バイタル測定を行い体調確認をしている。安全で安心して入浴できるように二人介助やシャワーチェアを使用している。	入浴は週2回、見守りながら行っている。一番風呂の希望が多い。プライバシーに配慮してタオルで被うなどしている。立位が難しい方は2人介助を行っている。脱衣所の温度管理は、扇風機やヒーターで行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えて気温、湿度の確認をし不快にならないよう配慮している。一人ひとりの体調や様子を見ながら日中の過ごし方を工夫している。眠れないと訴えある時には必要に応じて医師に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳、薬の説明書をよく読み、薬の目的や副作用、用法や用量を理解している。与薬時は名前、日時、数(錠剤)を必ず確認し飲み終えるまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し経験や知識が発揮出来るよう野菜の収穫、園芸、買い物等の場面作りをしている。日々の張り合いとなるよう意思を伺い「やれる事」や「できそうな事」を取り入れ支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調やその日の天気を見ながら散歩、おやつを食べに外出している。また、家族との外出を楽しむことができている。	若柳に花見ドライブや金成の道の駅に出かけた。家族と外出をしている入居者もいる。入居者の体調をみながら、園内を散歩をしている。敷地内で葡萄や林檎、苺の収穫をしたり、芋煮会や夏祭り、花火大会を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昼食時の出前、弁当、ドライブ時のおやつは好きな物を選んで頂けるように支援している。金銭管理は家族の希望や一人ひとりの力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への電話希望があった時には、その場で支援行っている。また、FaceTimeやLINE電話も活用している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天気、時間帯により、温度、湿度、照明、音等快適に過ごせるように配慮している。また、四季折々の装飾や園庭の花等で季節のうつり変わりを感じて頂けるよう工夫している。	台所から居間兼食堂が見渡せる。季節ごとに飾りつけを変えており、現在はクリスマスツリーを飾っている。壁にはクリスマスの飾りつけをしている。1日4回の換気を行い、コロナ感染防止に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはソファや椅子を置いている。利用者同士会話を楽しんだり休憩したり一人の時間を過ごしたりしている。気の合う利用者同士お互い居室へ遊びに行かされている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら馴染みの家具、布団、衣類、食器等お持ち頂き使いやすい配置にしたり、居心地よく過ごせる工夫をしている。入居後も相談しながら、必要な物をお持ち頂いている。	洗面台やクローゼット、エアコンが備えられている。ベッドや筆筒等馴染みの物を持ち込んで自宅の雰囲気を出している。娘や孫の写真、誕生日カード、夫の位牌などを置いている。テーブルを自分で拭く入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること、わかることを把握し居室、トイレ、お風呂場等を分かりやすく表示し、過ごしやすいよう工夫している。建物内部は、整理整頓を心がけ安全と安心に配慮している。		